

災害環境研究プログラム 環境創生研究プログラム

委員会からの主要意見

現状についての評価・質問等

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○福島のみならず、災害復興を目指す地域の施策を考える上できわめて重要な研究プログラムである。 ○自治体レベルへの実装に向けて、社会経済的な要素まで含めた地域統合評価モデルの開発は高く評価できる。 ○地域の再開発計画において科学的データに基づいて可視化された地域創生に向けてのシナリオ解析モデルが示されることで、政策決定や町興し事業など社会実装に結びつけられている点を評価する。開発された各種モデルの利用によってどのような情報を提供できるかなどをわかりやすく見せる工夫があるとよい。 |
|--|

今後への期待など

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○ケーススタディから一般化できる知見をまとめることはチャレンジングだが、他地域へも適用可能な地域社会モデル研究となることを期待する。 ○木質バイオマスの活用など地域エネルギーシステムに関する研究の進展が期待される。資源の乏しい日本の持続的な発展に繋げられるような成果を期待したい。 |
|---|

主要意見に対する国環研の考え方

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ①本プログラムにおける取り組みを評価いただきありがとうございます。引き続き地域に根ざした社会実装を目指し、様々な都市施策を評価しつつ、エネルギー・環境配慮型の施策提言可能な研究を行っていきたいと考えております。 ②一般化については、これまでに事例地域として扱ってきた自治体において、例えば、電力小売自由化に応じて地域エネルギー会社を立ち上げたり、独自の設備導入が不要となるようにくらしアシストシステムをオープン化したりするなど、他地域への導入可能性を視野に入れて研究を展開しております。これらのプロセスを汎用的に地域主体に提供すると同時に、他の自治体との連携により水平展開を目指します。 ③災害環境研究におけるバイオマス研究については、FIT 制度に鑑み早い段階で研究をスタートさせていた成果が蓄積されつつあります。ある自治体で成功事例を作ることは他の自治体にとっても大きな励みになると考えており、今後も地域エネルギー事業の推進と普及に向けて研究を進めてまいります。 |
|---|